

実践中心の「ゆうきびと有機農業入門塾」

8年目を迎え、まだまだ有機農業の理解は、一般には広まっていないことを実感



↑ 塾生の
みなさん

農場→



福田裕充（ふくだ ひろみつ）
プロフィール

1991年より有機農業を始める。
2008年（株）よしわ農園設立。
200アールの圃場で野菜を栽培、JAS認証を受けている。
西中国山地の中央に位置する。
標高650～700mで夏野菜

を中心に栽培。冬期は雪深い地域のため、農産物と加工品を製造している。

日本有機農業研究会幹事、広島県有機農業研究会運営委員、NPO法人ゆうきびと理事、有機JAS検査員、日本有機農業研究会有機農業アドバイザー認定（2017年11月1日）。

電話 0829-40-3220 / FAX 0829-40-3221

Mail yukinouen.fukuda@gmail.com



有機農業をはじめて26年、野菜中心の有機栽培・食品加工などを行っています。農園での研修生の受け入れの一方、「NPO法人ゆうきびと」（注）主催の有機農業入門講座で講師を続けて8年目を迎えます。

今回、日有研の有機農業アドバイザーの認定を受けましたので、アドバイザーの活動の柱といえる有機農業の研修・指導に関して、「ゆうきびと」での具体的な取り組みを紹介します。

初心者から有機栽培へ転換したい生産者まで多彩な塾生

塾長の私は、研修プランを作り、実習や講義の指導を行っています。よしわ農園は、塾の会場となり、施設や用具の利用や実習用のほ場になっています。開講は4月から11月ごろまで、およそ2週間に1回の割合で土曜日に開いています。時間は9時から14時まで。基本的に午前中が実習で、午後が座学というスケジュールです。

当農園は、中国山地の真っ只中に位置し、冬の豪雪地帯として知られており、晴天の広島市内から車で1時間あまり走らせたただけで、吉和では一面に銀世界が広がっているということも多いのです。春先は、上着が1枚余分に必要なくらい寒く、逆に夏は冷涼で、暑い盛りでも日陰ではさわやかに過ごせます。吉和は避暑を求める別荘地が多いことでも有名な場所なのです。

入門塾の塾生は、広く一般の方を対象とし、募集は毎年チラシを作り、近隣の施設やイベントで配布したり、新聞にパブリシティ掲載をしていたり、よう働きかけたり、ブログなどで広報しています。生徒数はこれまで、5人程度しか集まらなかった年もあれば20人近く申し込みがあった年もあるなど、まちまち。また集まった生徒のキャリアは、まったく土いじりをしたことがないような人から、自己流で家庭菜園をしてきた人、慣行栽培から有機栽培への転換を目指している生産者など、まさに多種多様。さらに男女の偏りもなく、年齢も実に幅広い方々が参加されています。

希望者には個人スペースのほ場とランチを提供して好評

私がスタート時から心がけてきたのは、実習中心の授業です。そのため、よしわ有機農園に塾専用のほ場を用意し、生徒全員でほ場を使って、共同作業を行うことを基本にしています。

午前9時に集合して、お昼までほ場で実践授業。ここでは、私の指導のもと、ほかしづくりや土づくり、畝づくりなど基本的なことから、種まき、定植、剪定、収穫など、実際の農作業の工程に沿って、順を追って作業していきます。ちなみに、参加された生徒さんたちによると、県や市町などでも農業関係の講習はいろいろあるようですが、実践が伴ったものは少なかったとのこと。

共同ほ場で栽培する作物は、生徒の希望を聞きながら、できるだけ多くの種類を体験できるようにしています。また近年は、ほ場に余裕がある場合は、希望者に個人スペースを提供して、それぞれ好きな作物を栽培してもらうサービスも始めており、好評です。

また、ランチの提供も行っています。きっかけは、よしわ有機農園に隣接するレクリエーション施設「魅惑の里」が一時閉鎖され（現在は再開）、近くに昼食を食べる場所がなくなったことでした。そこで、食事を提供しようということになり、希望者には用意することになりました。幸い、農園の事務所には本格的な厨房があり、農場のスタッフが調理してくれます。農業塾のほ場で収穫したての野菜がそのまま食材となるようなランチは格別で、最初はお弁当を持ってきた人も、いつしか昼食を希望するようになっていきます。午後は、座学を1時間程度行います。午前中の農作業のおさらいをしたり、農業分野の新しい情報を知らせたり、質問に答えたりといった内容で、終了時間を超えることも少なくありません。

ところで、こうした有機農業を学びたいと来ている人は、有機JASなどの「有機」の意味はわかっているかという点、実は漠然と分かっていると言うことで、私の説明に驚くことが多いのです。ま

だまだ有機農業の理解は、一般には広まっていないな、ということをつくづく実感しています。

塾の1日はこのようにして進行します。しかし、暑い時は休み時間を多くとったり、農作業が間に合わないときは午後からも実習したり、雨の場合は実習をお休みして有機農業について話し合ったり、かなりアバウトに進行しています。

春から秋まで、年齢もキャリアもまったく違う人々が、ひとつの作業を通じて仲良くなっていく様子を見るのはなかなかいいものです。講義の最終回は、打ち上げと称して、パーベキューや鮎を炭火焼きするなど、1年間の慰労も兼ねた昼食会を催しています。

塾には、筆記による卒業試験があり、生徒さんから恐れられています（これまで落第者はなし）。

有機農業入門塾は、年度ごとの完結ですが、2年続けての受講者や何年か経て再度受講する方もいます。中には農業での独立を目指す若い方もおり、卒業後もアドバイスを求めにこられるなど、交流が続いています。また、生徒さん同士で情報交換しようとして、当塾のOB会となる「ほかしの会」が、初年度卒業生により設立され、年々卒業生を受け入れながら、有機農業の先進地に視察に行く催しを企画するなどの活動を行っています。

卒業生からは、有機農業が学べることはもちろん、隔週で吉和の自然の中で農作業を行うことが気持ちのリフレッシュになり、知り合った仲間と会えることが楽しかったという声も聞いています。

広島県の片隅で続けてきた有機農業入門塾ですが、有機農業を学びたいという生徒さんがいる限り、これからもマイペースで、できるだけ長く続けていければと考えています。

(注) NPO法人ゆうきびと(事務局/広島市)

有機農業の普及と啓発を目的に広島県、島根県、山口県の有機農業関係者が集まり、平成22年1月に設立された。以来さまざまな活動を行っており、主催の「ゆうきびと有機農業入門塾」を開いて、今年4月の新年度で8年目を迎える。